

夫と出会って

信田 真弓

私は、心に障害をもっています。私の夫は障害をもっていない人です。今日まで、夫の理解力と努力によって、私は夫からささえられてきました。

私は数年前に両親を二人ともなくして、兄弟もいません。今現在、家族でいるのは、夫と子供一人だけです。今、思えば両親が生きているうちに、夫と知り合って、結婚してよかったなあと思います。後になって、両親二人ともなくすことになるうとは。

私は、三十三才の時、男の子一人を生みました。私の産んだ子供も、心に障害をもっていて、小さい頃、高機能自閉症（発達障害）と言われました。子供も、小さい頃からなので人知れず、人並みならぬ苦勞をしてきたと思います。私は、短大に行って、卒業できなかったけれども、息子は県立短大に行って、無事、卒業もしました。息子が、数学の問題集などを買って、自分からどんどん、勉強をしていくのを見て、「この子は勉強がとっても好きなんだなあ。」と思いました。

私は、今現在、アパートに一人ですんでいます。夫と子供とは、離れて暮らしています。そんな私が、たよりにしているのは、けいたい電話です。電話をかける相手は、夫、友達などです。夫にかける時は、今生活するのに足りないものがあるので、もってきてほしいという時です。夫は夫で、私が電話で言ったものを、今度、鶴岡のアパートに来る日まで、新しいものを全部、買いそろえて、必ずもってきてくれます。夫にかける電話の主なものは、生活用品の補充がほとんどです。

今現在、私は毎朝、オフィス「ひので」という作業所にかよっています。毎週、月曜日と木曜日にコミュニティセンターの、そうじ当番の日にあたっています。毎週、そうじ当番の日には、朝六時になると夫に必ず電話をして、

「今日、コミセンのそうじの日なんだけど、大丈夫かなあ。」

と、きいています。夫の方は、

「大丈夫だ。時間までに、できればいい。いつもどおりにすれば、必ず大丈夫だから。」

と、毎回言ってくれます。コミュニティセンターのそうじに当たっている日は、いつも電話でこんなやりとりをしてから、仕事に行っています。この電話をしているおかげで、ほとんど休まないでコミュニティセンターのそうじを続けています。

はじめの頃は、職員に何回かやめてしまいたいと言ったものでした。でも今は、仕事ができ道にのって、仕事がかどるようになり、前よりも職員の人から、注意されなくなりました。仕事が、うまくいっていることもあって、今の私は、悩んでいることが、何一つもなく、気分は、雲一つない青空に似た状態です。今は、落ち込む時が、一度もなく、仕事がかどるようになっているので、精神の状態も、おいしい自然の空気を十分に吸って、たいへん健康的で、体も前は、明日の朝まで疲れがとれるかなあと思って続けてきましたが、今では、疲れ知らずです。外の空気は体にたいへんよく、私の精神の病は、外の空気を吸って、ふれることは、たいへん以前より、よくなっているにちがいありません。

心に障害のある、私にとって、夫はいつも力づけてくれる存在なので、これからも、お互い助け合って、生きていきたいと思っています。私は心に障害のある人なのに、それでも夫は、結婚してくれたので、夫との出会いに感謝して、これからも、お互いに協力して生きていきたいと思っています。私にけい帯電話をくれたり、アパートにすんでからは、私が十分、栄養をとれるように、家賃、光熱費、食費などを出してくれます。私は収入が少ないので、夫が、お金を出してくれます。それにたよって生活していかなければならないのです。

今は、夫とは出会った頃とはちがい、友達同士ののような夫婦になりましたが、これからもお互い、大切にしなければならぬ人だと思っています。